

令和6年2月5日

足立区立江北桜中学校
校長 金子 哲朗 様

足立区立江北桜中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 今西 靖彦

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

- ・新型コロナウイルスの影響がだいぶ治まり、運動会や江北桜祭がコロナ前とほぼ同じ状態で実施できるようになった。実際に参観し、生徒が生き生きと行事に参加している姿がいたるところで見られた。特に、3年生の真剣さは際立ち、運動会での演技種目や江北桜祭の合唱どちらも、最上級生として下級生に高い目標を示すものとなった。今後も、生徒の素晴らしい姿を期待している。
- ・放課後の学力補充の時間、朝のベーシックタイム、学習コンテスト（漢字コンテスト、計算コンテスト、スペリングコンテスト）を継続して実施した。生徒の学習への意識付けや達成感を充実させ学校全体で基礎学力の定着に効果を上げた。
- ・「家庭学習ノート」の取組も定着し、全校体制で家庭学習の習慣づくりを進めている。
- ・授業等の教育活動にICTの活用を進めている。授業での活用と合わせ、長期休業中には全校生徒に端末を持ち帰らせ、家庭学習での利用できるようにした。教科や学年から、端末を活用して取り組む課題を提示したことによって、家庭でのICT活用が促進された。
- ・道徳教育の工夫として、担任の先生だけでなく学年の先生全員でのローテーション指導を実施している。また、「いじめ撲滅週間」「人権学習週間」を年間予定の中に配置し、学校全体で生徒の心の教育に取り組んでいる。
- ・生徒アンケートでは、「自分はいじめをせず、仲間に思いやりをもって接している」の肯定的回答が約98%。「学校に居場所があり不安感はない」の肯定的回答が約90%。生徒の心の安定と前向きな姿勢が育ってきている。
- ・人権学習で2年生では「アニメ めぐみ」を視聴したとのこと。北朝鮮拉致問題について初めて知り、横田さん家族の悲しみを強く実感した生徒が多かったという。教科授業ではないが大切な学習だと感じた。
- ・江北小学校、扇小学校との連携研修を年7回開催した。足立スタンダードという共通の授業方法を土台として、小中の教員が協働して指導力向上に取り組んでいる。
- ・ボランティア活動に積極的な生徒が多い。12月までのボランティア参加生徒は延べで約250名。（ボランティア依頼件数は14件）年度当初に学校が立てた目標をとっくに到達・突破したとのことで、生徒の地域貢献に感謝している。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・生徒の学力向上、基礎学力定着について、生徒アンケートでは、「授業中意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答は約89%であった。しかし、「家庭で学習する習慣が身についている」の肯定的回答は74%であり、受験期の3年生は高い数値となったが、他の学年での家庭学習には課題が見られた。「家庭学習ノート」や「ICT端末活用」などをさらに進めていくことに期待している。
- ・不登校生徒の教室復帰や、それまでの学習環境・居場所づくりに学校が取り組んでいる。校内に別室学習できる部屋を用意したり、区の関係機関と連携して外部に居場所をつくったり、それらを毎週の会議で情報共有したりと、学校の努力が理解できた。

3 その他

- ・学校全体で、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、一部の生徒については地域で問題行動が見受けられる。教員の資質向上と生活指導の徹底をしていただきたい。
- ・部活動指導や、学習支援ボランティア、登校サポーター等に地域から協力できる人材を提供できるようになるとよい。子どもたちの健全育成のために一致協力して、今後も援助を惜しまない。